

平成30年度 **国** **語** (50分)

## 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 2 この問題冊子は30ページである。  
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始の合図前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
  - ・①氏名欄  
氏名を記入すること。
  - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄  
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 4 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

10
----

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 欄				
10	①	②	③	④	⑤

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

国語

解答番号

1

24

1

次の問1～問7に答えよ。

問1 傍線部の漢字の正しい読みを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 1。

生活を改善しようと自らを戒めた。

- ① あらた
- ② いまし
- ③ みと
- ④ なが
- ⑤ と

問2 (ア)、(イ)の傍線部にあたる漢字と同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は 2・3。

(ア) カンイ書留で書類を送る。

2

- ① 台所のカンキセンを回す。
- ② カンケツな文章を書く。
- ③ カンカクを空けて座る。
- ④ ナンカンを突破する。
- ⑤ 富士山の初カンセツを見る。

(イ) 野球部のコモンを務める。

3

- ① 家庭をハウモンする。
- ② ツウヨウモンから入る。
- ③ ジュモンを唱える。
- ④ モンキリ型の挨拶をする。
- ⑤ 万葉集のソウモン歌を読む。

問3 次の文について説明したものとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 4。

哲学とはまったく利己的なものなのだが、幸いにしてその利は、だれも他に欲しがるひとがない自分だけの利であるため、あたかも公正な態度のように見えるのである。

(永井均『子ども』のための哲学』による。)

- ① 「だれも他に欲しがるひとがない」ものは「哲学」であり、「自分だけの利である」ものは「その利」である。
- ② 「だれも他に欲しがるひとがない」ものも、「自分だけの利である」ものも、いずれも「哲学」である。
- ③ 「だれも他に欲しがるひとがない」ものは「その利」であり、「あたかも公正な態度のように見える」ものは「哲学」である。
- ④ 「だれも他に欲しがるひとがない」ものも、「あたかも公正な態度のように見える」ものも、いずれも「哲学」である。
- ⑤ 「だれも他に欲しがるひとがない」ものも、「自分だけの利である」ものも、「あたかも公正な態度のように見える」ものも、いずれも「哲学」である。

問4

次の文は、母親の留守中に、母親の勤務先の上司から母親宛てにかかってきた電話を、「私」がとり、相手から母親への伝言を聞く際に「私」が発言した言葉である。空欄 A・B に入る言葉の組合せとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

5。

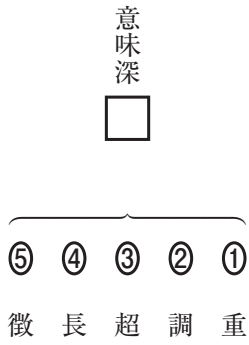
母は今、  
A、私が代わりに御用件を  
B。

- ① A 〓外出しておりますので B 〓うかがいます
- ② A 〓外出していらつしやるので B 〓聞きましょう
- ③ A 〓外出なさっているの B 〓おうかがいします
- ④ A 〓お出かけしていらつしやるので B 〓お聞きになります
- ⑤ A 〓お出かけしているようなので B 〓聞かれます

問5

空欄に一文字を補うと、「人の言動や文章などに、表面に現れた意味のほかに、別の意味が含まれていること」という意味の熟語になる。空欄にあてはまる漢字を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

6。



問6 次の傍線部と文法的な意味や用法が同じものとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

十分に準備をしておいたので、失敗をせずに済んだ。

- ① 君ならで誰にか見せむ梅の花色をも香をもしるひとぞしる (古今和歌集)
- ② 世の中にたえて桜のなかりせば春のころはのどけからまし (古今和歌集)
- ③ 花の色はうつりにけりないたづらにわが身世にふるながめせしまに (古今和歌集)
- ④ 東風吹かば匂ひおこせよ梅の花あるじなしとて春を忘るな (拾遺和歌集)
- ⑤ 見わたせば花もみちもなかりけり浦のとまやの秋の夕ぐれ (新古今和歌集)

7

問7

「卒」という漢字には、次の①～③のような意味がある。このうち、②の意味にあたる「卒」を含んでいる熟語を後のア～オから選ぶとき、その組合せとして最も適当なものを、後の①～⑤から一つ選べ。解答番号は

8。

- ① 兵士。あつまり。多くの人。
- ② にわかに。急に。
- ③ おわる。おえる。結局。

ア 卒然      イ 卒年      ウ 将卒      エ 卒業      オ 卒倒

- ① ア・イ・ウ・エ
- ② ア・イ・エ・オ
- ③ イ・ウ・オ
- ④ イ・エ・オ
- ⑤ ア・オ



2

南高校の青野さんのクラスでは、総合的な学習の時間に「まちおこしプランを提案しよう」というテーマで、グループごとに地元の南市の活性化プランを作成し、学年末には地域の人々を招待して研究成果発表会を開くことになっている。【話合いの一部】は、青野さんのグループにおける話合いの様子的一部である。これを読んで、問1、問2に答えよ。

【話合いの一部】

青野さん 「今回は私が司会をします。前回までの話合いで、私たちのグループでは、まちおこしのために南市の様々な良さを紹介する『南市観光バスツアー』を提案しようということになりました。今日は、それぞれが考えてきたことをもとに、ツアーで訪れる場所や、メンバーの役割分担を決めるところまでを話し合って、残りの時間は各自インターネットなどを使って必要なことを調べる時間にしたいと思います。まずは、訪れる場所について、考えてきたことを発表してください。」

赤沢さん 「私は以前、家族で一緒に観光会社が企画したバスツアーに参加したことがあるんですが、幾つもの観光スポットを効率よく見て回れて、すごく楽しかったのを覚えています。今回の企画もツアーというくらいだから、南市の全体を巡って、様々な場所を見て、『旅をしたなあ』という実感をもてるようなプランにするのがいいと思います。」

緑川さん 「私もそう思います。私は南市の産業について調べてみたのですが、南市は、沿岸部南部は漁港を中心とした漁業、沿岸部北部は大南神社を中心とした商業や観光業、内陸部は農業というふうに、三つの地域に分けられるのだそうです。だから、この三つの地域ごとにそれぞれ中心となるスポットを決めて、ツアーを組むのがいいと思います。」

黒田さん 「私はあちこちを回るために時間を割くことには反対です。南市といえばやっぱり大南神社が有名で人気もあるのだから、その周辺をじっくり紹介すればいいと思います。初詣や夏祭りには大勢の人がやってきますし。それ以外の場所は有名ではないので、行きたいと思う人もあまりいないのではないのでしょうか。」

赤沢さん

「でも、」

緑川さん 「大南神社は確かに南市では一番有名な場所だから、お客さんの目を引くスポットにはなると思いますが、せっかくまちおこしのためのツアーを提案するんだから、ツアーに参加したからこそ、その良さが分かったという要素も入っていた方がいいと私は思います。」

青野さん 「そうですね。そうしないと前回までに決めてきたことが無駄になってしまいますね。そうすると、さっき緑川さんが提案してくれた三つの地域ごとに観光スポットを決めるというのが、ツアーの企画としては考えやすいと思うのですが、黒田さん、それで了解してもらえますか。」



黒田さん 「わかりました。」

青野さん 「それでは、大南神社周辺以外の場所で、観光スポットになりそうな場所がありますか。」

赤沢さん 「沿岸部南部でいえば、漁港周辺には観光スポットになりそうな場所が見つかると思います。私も何回か行ったことがありますが、漁港だけでなく魚市場や海産物を扱った食品店やお土産のお店もあります。」

黒田さん 「でも、漁港周辺だときつと午前中の早い時間しかやっていないお店もありますよね。」

赤沢さん 「それは私も考えましたが、実際に市場や周辺のお店の営業時間や営業日を調べてみて、観光が可能な時間にそこに行くことにすればいいのではないのでしょうか。大南神社周辺の方は時間には制限があまりないと思うのですが。」

黒田さん 「そうですね。大南神社ならきつと何時でも大丈夫ですね。」

青野さん 「あとは内陸部ですね。どこかふさわしい場所がありますか。」

緑川さん 「先日チラシで見て気になったので調べておいたのですが、廃校になった小学校を使って、農業体験施設ができたそうです。体験農場で季節ごとの作物の栽培や収穫を体験したり、レストランで地元でとれた農産物を使った料理を味わったりすることができるといいですよ。南市の農業の紹介にはびったりなのではないでしょうか。」

黒田さん 「そんな施設ができたんですね。面白そうですね。『〇〇狩り』とか『〇〇食べ放題』とか、よく観光ツアーの宣伝文句にも使われていますよね。」

赤沢さん 「そういえば、私が以前家族で行ったツアーには『イチゴ狩り食べ放題』という見出しがありました。とてもおいしくて、おなかいっぱい食べられて大満足でした。」

黒田さん 「それは何月頃でしたか。」

赤沢さん 「たぶん三月だったと思います。春休みの頃ですね。」

黒田さん 「夏休みだったら何の食べ放題がおいしそうでしょうか。」

赤沢さん 「海の幸なんていいですね。」

黒田さん 「そうですね。」

青野さん 「ちょっと待ってくださいね。話を戻します。では、沿岸部南部は漁港周辺、沿岸部北部は大南神社周辺、内陸部は農業体験施設ということで目的地はいいですか。」

他の三人 「異議ありません。」

青野さん 「次に担当者ですが、これまでの発言から、漁港周辺は赤沢さん、大南神社周辺は黒田さん、農業体験施設は緑川さんをお願いしたいかなと思うのですが、どうですか。」

他の三人 「異議ありません。」

黒田さん 「それはそれでいいと思いますが、各観光スポットの担当だけではなく、ほかの三人の調べた内容を聞きながら、出発時間や滞在時間の調整をして企画をまとめる役も必要なのではないですか。」

赤沢さん 「私もそう思います。さつきも言いましたが、漁港周辺には時間の制約もありそうですし、移動時間なども考えて、ツアーとして成立できるように調整する必要がありますよね。」

緑川さん 「そうですね。それで経費も考えて、参加人数や費用を決めたり、日程まで決めたりしてもらえれば、本当に実現しそうな提案になる気がします。青野さん、やってもらえますか。」

青野さん 「わかりました。それでは、まとめる役は私が務めます。皆さんの調べたことをもとにしてツアーとしての企画の調整を進めていくことにしましょう。では、残りの時間はそれぞれの担当箇所について、観光プランに必要なことを調べてください。」

問1 空欄には、赤沢さんが「南市観光バスツアー」の趣旨に合った企画にしようとして述べた発言が入る。その発言として最も適当なものを、次の

① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

- ① 大南神社周辺だけで企画しようとするのたいした娯楽施設もないので、若いお客さんを飽きさせてしまうことになるのではないですか。
- ② 有名な大南神社を前面に押し出してツアー客を募集すると、お客さんがたくさん来すぎて対応しきれなくなってしまうのではないですか。
- ③ もともと栄えている大南神社周辺だけにしぼってしまつと、南市の様々な良さを紹介するということにはならないのではないですか。
- ④ 大南神社は有名で人気もあるので、私たちより詳しい人が多く、私たちでは十分な紹介ができないのではないですか。
- ⑤ 大南神社も初詣や夏祭り以外はこれといった見所はないので、お客さんが行きたいとは思わないのではないですか。

問2 この話し合いでメンバーの発言が果たした役割について説明したものととして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

10。

- ① 自分の直感に基づいて他のメンバーが気付かないような問題点について指摘した黒田さんの発言は、話し合いがテーマから離れそうになるのを修正するのに役に立った。
- ② 青野さんの発言は、あらかじめ自分の思っていたとおりの結論に向かってメンバーの話し合いを強く誘導し、話し合いの目標を予定どおりに達成することに役に立った。
- ③ 取りまとめ役を積極的に引き受けようとしていた黒田さんが、自分の代わりにまとめ役として青野さんを推薦した発言のおかげで、話し合いがうまくまとまった。
- ④ 緑川さんの提案を受けて話を盛り上げた赤沢さんや黒田さんの発言によって、テーマを離れて自由に意見を交換できるようになり、全体の話し合いが活発になった。
- ⑤ 赤沢さんの自分の実体験をもとにした企画についての意見や、緑川さんの事前に調べてきたことをもとにした提案は、話し合いの内容を方向付けるのに役に立った。

3

東高校の一年生のクラスでは、国語総合の時間に、次の【課題】に対して各自で構成メモをつくり、それを踏まえて意見文を書くことになった。これを読んで、問1、問2に答えよ。

【課題】

○新聞の投稿欄に掲載された **投稿A**、**投稿B** を読んで、「優先席は必要か」というテーマでああなたの考えを三百字～四百字で書きなさい。  
ただし、次の【条件】を守ること。

【条件1】 テーマに対する自分の考えとその理由を明確にすること。

【条件2】 **投稿A**、**投稿B** の両方の内容に触れること。

【条件3】 三段落で構成すること。

**投稿A**

「やっぱり必要なのは優先席」

大山市 中山花子(17歳)

先日熱を出してしまい、学校を早退した。家に帰るために乗ったバスは混んでいたが、優先席が空いていたので、そこに座ることができ、とても助かった。公共交通機関を利用する人は元気な人ばかりとは限らない。あの時の私のように、体調の悪い人も利用しているのだ。全ての人が安心して公共交通機関を利用できるように、優先席は必要なのだと改めて思った。

**投稿B**

「優先席はまだ必要？」

大山市 小山太郎(18歳)

私は通学で電車を利用している。けがをしている人や老人が電車に乗ってくると、座っていた人たちはごく自然に席を譲っている。このような光景は特別なものではなく、私が乗っている電車では当たり前な光景だ。  
このように、自然に相手への気遣いができるのだから、もう「優先席」はなくてもよいのではないかと思うのだが、どうだろう。

問1 【石田さんの構成メモ】、【柿沼さんの構成メモ】、【前田さんの構成メモ】、【大野さんの構成メモ】は、【課題】に対して、石田さん、柿沼さん、前

田さん、大野さんの四人がそれぞれ作成したメモであり、【Ⅰ】、【Ⅱ】、【Ⅲ】は、それぞれのメモに対して、四人が相互に行ったアドバイスの一部である。【Ⅰ】、【Ⅱ】、【Ⅲ】は、それぞれ誰の【構成メモ】に対するアドバイスか。その組合せとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

【石田さんの構成メモ】

段落	内容
1	投稿Aは、熱があつてバスに乗った時に、空いていた優先席に座れた体験から、すべての人が安心して公共交通機関を利用できるためには、優先席は必要だと述べている。
2	投稿Bは、電車に乗る人のマナーがよくなっているのだから、優先席はなくてもよいのではと述べている。
3	私は電車通学をしている。電車を利用する人には、さまざまな人がいる。私は電車やバスには優先席は必要だと考える。

【柿沼さんの構成メモ】

段落	内容
1	優先席は必要であり、なくてはならないものだとは私は考える。
2	投稿Aの書き手は、すべての人が安心して公共交通機関を利用できるようにするために、優先席は必要だと考えているのに対し、投稿Bの書き手は、利用者のマナーがよくなっているのだから優先席はなくてもよいのではないかと考えている。
3	どちらの考えにも一理あるように感じるが、私は先にも述べた通り、優先席は必要であり、なくてはならないものだと考えている。

【前田さんの構成メモ】

段落	内容
1	投稿Aでは、自分が具合が悪いときに利用したバスで、優先席が空いていて助かったという体験が書かれている。
2	投稿Bでは、電車においては利用者が自然に席を譲るようになっているのだから、もう優先席はなくてもよいのではないかと書かれている。
3	私は投稿Bの考えには反対だ。少なくとも、私が利用している電車では、投稿Bに書かれているようなマナーの良さは、残念ながら感じられない。投稿Bの人には、こういう事実を知ってほしいと思う。

【大野さんの構成メモ】

段落	内容
1	優先席は必要だと考える。なぜなら、投稿Aの書き手が言うように、誰もが安心して公共交通機関を利用できるようにするために、優先席を設けることが不可欠だと私も考えているからだ。
2	もちろん、投稿Bの書き手が言うように、優先席はなくてもよいという見方があるのも事実だろう。しかし、誰もが安心して公共交通機関を利用できる社会を実現するには、優先席は必要だ。
3	このことから、優先席は必要だと私は考える。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| ⑤    | ④    | ③    | ②    | ①    |
| I    | I    | I    | I    | I    |
| 柿沼さん | 柿沼さん | 柿沼さん | 石田さん | 石田さん |
|      |      |      |      |      |
| II   | II   | II   | II   | II   |
| 石田さん | 前田さん | 大野さん | 前田さん | 大野さん |
|      |      |      |      |      |
| III  | III  | III  | III  | III  |
| 前田さん | 大野さん | 前田さん | 大野さん | 前田さん |

I

条件2と条件3は満たしている。  
 条件1については、テーマに対する考えは述べられているが、どうしてそう考えるのかという理由が曖昧であるため、満たしているとは言えない。第1段落か第3段落の中で、主張の理由が明確になるように改善するとよい。

II

条件1、条件2、条件3のすべてを満たしている。特に、自分と異なる見解があることへの裏付けとして投稿Bの内容をあげ、その見方に対する反論まで書いている点がよい。

III

条件2、条件3は満たしている。  
 条件1については、テーマに対する考えと理由を書くべきであるのに、投稿Bに対する意見を書いてしまっているため、満たしているとは言えない。第3段落でテーマに対する考えと理由を明確にするとよい。

問2 次にあげる【意見文】は、【課題】に対して山脇さんが書いたものである。この【意見文】を、より説得力のあるものにするためのアドバイスとして最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

【意見文】

投稿Aは、すべての人が安心して公共交通機関が利用できるように、優先席は必要だと述べている。一方、投稿Bは、公共交通機関の利用者のマナーが良くなっているのだから、優先席はなくてもよいと述べている。	私は優先席は必要だと考える。なぜなら、公共交通機関はあらゆる人が利用するものである以上、あらゆる年代の人への配慮が必要だと考えるからだ。例えば、けがをした人や病気の人、また、他人からはそれと気づかれにくい妊娠初期の人が公共交通機関を利用する場合、もし優先席がないとしたら、どのような問題が生じるだろうか。座れないかもしれないことが不安で公共交通機関の利用をためらい、必要な外出ができなくなってしまうかもしれない。このようなことはあってはならない。	あらゆる年代の人が利用するのだから、公共交通機関に優先席は必要だと私は考える。
---	---	---

- ① 具体例として挙げられた内容は、単に思い付いた可能性を指摘しているにすぎないため、現実起こりうる例を用いた方がよい。
- ② 具体例として挙げられた内容は、山脇さんが直接に体験したことではないが、意見文であるため、常に本人の体験に基づく事例の方がよい。
- ③ 具体例として挙げられた内容は、特定の人だけを対象とした例であるため、全ての読み手に関わる内容を挙げた例にするとよい。
- ④ 具体例として挙げられた内容は、山脇さんが挙げている理由に対応していないため、挙げている理由に的確に対応した説明にするとよい。
- ⑤ 具体例として挙げられた内容は、投稿 A の内容をそのまま繰り返したただけであるため、独自の視点での考察を加えた例にするとよい。





4

次の文章を読んで、後の問1～問6に答えよ。なお、行頭の番号は、行番号を示している。

緑子は両親とともに文具店を営んでいる。年老いた両親に隅田川の花火を見せてやりたいと考えた緑子は見物のための周到な計画を立て、花火大会の前日には見物する場所の下見をするほど熱心に準備を進めていた。母は緑子のために浴衣を出してくれた。

洋服だったなら、もう、とてもむかしのものは入らないが、そこは和服のよいところ。太つても、やせても、それなりに着こなせる。事務員のような緑子が、たちまち、粋な年増女に変身した。

「そうすると、あんたも、まだまだ見られるよ」

緑子はまんざらでもない気分になった。

5 「日傘も忘れずに持っていきましよう」

「忘れ物はないかい」

店を閉め、すべての戸締まりを確認する。三人そろって外出したことのないこの一家は、その作業だけでも大変だった。

老いの妄想のひとつかもしれないが、火事になるのではないかと、泥棒が入るのではないかと、父も母も、異様なほど厳重に確認した。こんなに用心深い人々であったかと、自分の親ながら、おかしくなる。彼らには、泥棒が来たって盗るものもないという、決まり文句も通用しない。

10 ようやく、家を出たところで、近所のひとにばたりと会った。

「おや、お出かけですか」

「ええ、花火を見に」

「いいですね、どちらへ」

「隅田川へ」

15 「おや、粋ですね。遠いところへ。どうぞ、お気をつけて」

このへんの人は、確かに隅田川を、妖怪でも住むような、大変な遠方と思っているのだった。

午後三時。計画はすべて順調にすべりだしている。緑子は、なにやら誇らしげな気分になって、三人の先頭に立って、駅へ急いだ。

蔵前駅で降り、地上へあがったとき、まだ、太陽は高く、むわっとした熱気が地上に立ち上っていた。あたりには、すでに多くの人出がある。団扇

20 をコンビニで配っているらしく、行く人、行く人、みんな、ばたばたと扇あおいでいる。浴衣を着た若い人の姿も多い。

両親はここまで来るのに、精一杯の力を使い果たしたのか、目つきが次第にどんよりとしてきた。

駅の近くに、「水」という文字が染め抜かれた店を見つけた。二人を休ませるため、入ることにする。実は緑子もかなり疲れていた。まだ打ち上げまでだいぶ時間がある。

店内は狭く、しかも混みあっていたが、客の入れ替わりは頻繁で、すぐに席があいた。

25 「いちご」と父。

「あずきミルク」と緑子。

「少し高いけど、宇治金時といこうかね」と母。

普段は儉約に儉約を重ねている三人が、久しぶりにとる甘食である。

水をひとくち、口に入れると、汗がひいて、お尻の重くなった三人は、このまま、ここから花火を見られたら、どんなに楽だろうと思うのだった。

30 きのうち、下調べで確認した場所まで、歩けばまだ十五分ほどもあるだろう。若いころならなんでもないが、今は十五分も歩くとなると、思うそれだけで、むごく、きつい。

緑子は、残りの氷をゆっくり食べた。食べては休み、休んでは食べ。

「そんなちびちび食べていたら、氷だって、あんた、水になっちゃまうよ」

母に言われたけれども、実はもう歩きたくない。あんなに楽しみに来た花火だったのに、それを見るまでが長すぎるのだ。

35 自分も齢としを重ねたと思う。老いた両親は、なおさら疲れてすでにうんざりしているのではないかと、案ずればそれだけで、こころが重くなる。けれど彼らは何も言わない。底の知れない四つの泥の目が、いや、緑子のものを加えれば、総計、六つのどんよりとした瞳が、何も語らず、何かに耐えていた。三人はひたすら氷をくずし、たえまなくそれを、口へ運んだ。

A 「うめえなあ。久しぶりだ」

うなるように言った父の一言が、緑子をようやく、底から救い上げた。

店を出る前に、緑子は言った。

「ここからちょっと、歩くのだけれど、もし、膝が痛くなったら、すぐに言ってね。休むわ」

ああ、なぜ、人間には羽がないのか。

「だまし、だましだよ」

45 と父と母が言う。悪い膝のことを、いつも、そんなふうにする。その場をしのいで、なんとか先へ進む。緑子にも、充分思い当たる心境だったが、

今度ばかりは、「だます」ということが胸にこたえる。

つまり、自分で、自分をだますというわけだ。膝をだまして、歩かせるといふわけだ。自分のからだのあらゆる部位が、もう、自分の意志ではどうすることもできず、思い通りにはならなくなっている。それが老いるということなのか。

ようやく目当ての場所に着いたとき、あたりはもう、見物客でぎっしりだった。

50 みんな、花火の常連だということが、見回しただけで、すぐにわかった。しかもこのあたり、昨日も確認した、花火のよく見える、特設会場だ。そ

れをみんなはよく知っている。

動かぬ人の列のなかに押し込められ、三人は観念して、じっとその場にたたずんでいた。

かんかん照りつけていた太陽の光も、次第に弱まり、あたりには、夕暮れの気配が色濃くなってきた。

55 人ごみのなかで、とりあえず、日陰になっていた街路樹を見つけ、その下に、折りたたみ椅子を出して、両親を座らせた。もうほとんど脱力して、ことばも出ない。緑子もまた、疲れていたけれど、花火の本番はこれからである。

警備していた警官が、ぴーっと笛を鳴らした。

さあ、いよいよ、車道が通行止めになるようだ。歩道にいた見物人たちが、場所を競って、いっせいにわらわらと、開放された車道へ出てきた。

あつという間に、空間はふさがれ、緑子たちは出遅れた。あのあたりはと、狙っていたところは、あれあれと言うまに、うまってしまった。

三人は、呆然とそれを突っ立って見ていた。

60 見物客のほとんどは若者たちだったが、みな、動物のように、すばやく走り、他のものを蹴落とすような勢いで陣どつたあと、シートを、ばさばさと広げている。

はるか、むこうのほうまで、ひとでぎっしりとなった路上を見渡しながら、緑子はほとんど恐怖を感じた。場所取り合戦に容易に敗けて、なすすべもなく、つつ立っている。無力な自分が情けなかった。

「おばさんたちよ、じゃまだよ、じゃま。何、考えてんだよ！ さっさと進んで！」

65 ぼーっとしていると、背後から若者に怒鳴られた。それで仕方なく、街路樹の下に戻り、そこに持ってきたシートを広げた。犬がおしっこをするような場所である。実際、におう。だがこの際は、座ることが先決だ。

せめてもう少しむこうへずれたのなら、花火がもうすこし見えたであろうに、目の前には、ちょうど高いビルディングがそびえたっている。もしかしたら、ほとんど隠れて見えないかもしれない。わかっているながら、あまりに多くの観衆がいるせいで、もはや身動きがとれないのだ。

緑子は気落ちして、無口になった。

「もう、いいよ、緑子」

「ここでもいいから座ろう」

6時半になったとき、祝砲がなり、気分がいよいよもりあがってきたところで、七時ちようどに、花火大会は始まった。

次々と連発して、大玉があがり、少し離れたところで、うねる波のような歓声がわいた。

75 だが予想したとおり、三人のいるところからは、花火の全体は見えなかった。背の高いビルディングが隠してしまう。ほんのきれはしがのぞけるだけだ。「すごい音がするものだね」と父が言った。

「ほんとに、すごい音」と母も言った。

80 三人のまわりにいたひとたちは、ここじゃあ、だめだと大声をあげ、見える場所を求めて移動していったが、同じことを考えた人々によって、歩道はあふれ、出遅れたひとはみな、身動きがとれないで立ち往生している。

緑子は内心、イライラしたが、老人ふたりのことを思えば、しばらくここで待機するより、仕方なかった。下見までして、心待ちにしてきたのに、<sup>B</sup>これでは花火にきた甲斐がない。緑子は、うちひしがれて無口になった。でも母親は

「見えないというのも、乙なものだよ」などと言う。

「なに言ってるのよ、おかあさん。花火を見に来たのに」

「あら、花火って、音だけを楽しむこともできるのよ、ねえ、お父さん」

85 「そうさ、音を聞けば、想像できる」

なんとまあ、悠長な人たちだろう。むかしから彼らはそうであった。何があっても、あわてず騒がず、その状況をとにかく、受け入れる。

緑子が離婚を決意し、家へ戻ってきたときも彼らの態度は同じだった。原因その他について、聞きたい気持ち、心配する気持ちは山のようにふくれ

ていたに違いないが、なにがあったのかと問うようなことはなかったし、相手に申し訳がたないとか、早く戻れなどという正論をはくわけでもなく、逆に、相手を詰問して、娘を守るというのでもない。まあ、しばらくはここにいなさいと、静かに緑子を受け入れてくれたのだった。

90

なにがあっても、動かぬ人々だった。二人で一つの、ふしぎな塊は、状況を次々、飲み込みながら、けろりとした無表情で生きている。すごいと思う。だが緑子は、今度ばかりは、むかむかした。二人に対してというよりも、こういう状況に陥った自分に。自分たちに。

そうやってこのひとたちは、いつも謙虚に運命を受け入れてきた。だから損ばかりしてきたのではないか。戦って、勝ち取るということは、なかったのかと、場所を確保できなかった負い目もあって、かみつきたいような気分になったが、何にかみついたらよいのかわからなかった。疲れて、再び、泥の目になっている両親に、ほえたてることなど、とうていできない。

95

どかーん、どつかあああああん。  
ばらばらばらばら。

両親を見れば、確かに目を閉じて、花火を見るのでなく、聞いている。ああ、まいったと、緑子も納得して、同じように眼を閉じてみた。自分のなかに深く沈むと、心の闇に、見えない花火が次々にあがった。

(小池昌代「花火」による。)

問1 本文1行目から17行目までの場面における「緑子」の様子について説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 13。

- ① 自分では似合っていると有頂天になっていた和服姿に、やんわりと皮肉を言う親に対して軽い反発を感じている。
- ② 早く花火会場に行きたいと思っていた矢先に、極度に火事を警戒して用心深くなっている両親を見て、強いいらだちを感じている。
- ③ 目的地の隅田川が大変な遠方だと近所の人に聞き、年老いた両親を連れて行くことに対する不安が急に増大してきている。
- ④ 全ての部屋の戸締まりを確認するのも時間がかかってしまったため、初めて三人で出かけることに対する緊張感が高まっている。
- ⑤ 両親を引き連れて三人の先頭に立って歩きながら、入念に準備していた予定が着実に実行され始めたことへの高揚感を抱いている。

問2 傍線部A うなるように言った父の一言が、緑子をようやく、底から救い上げた。とあるが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 久しぶりに甘食を口にした緑子は、自分たちが分不相応な贅沢ぜいたくをしているような気がして後ろめたさを感じていたが、父がとても喜んでくれているとわかって、やっと気持ちが楽になったということ。
- ② 口には出さないが、両親は遠くまで連れ出されたことを恨んでいるのがひしひしと伝わってくるので気を悪くしていた緑子だったが、父のこだわりのない一言を聞いて、思い過ぎだと気づいたということ。
- ③ 目的地に着く前に体力を消耗し、年老いた両親にも無理をさせているという負い目から気持ちが沈んでいた緑子だったが、父の心からの感嘆の声を聞いて、前向きな気持ちになったということ。
- ④ 両親の衰えを目の当たりにした緑子は、自分自身の疲れもあって自暴自棄になっていたが、父の力強い声を聞いて反省し、これからは二人を自分が支えようと決心を新たにしたいということ。
- ⑤ あまりの猛暑によって、花火大会を見に行くどころではなくなってしまった緑子だったが、おいしそうに氷を食べる父の声を聞き、夏には夏の楽しみ方があると、妙に納得のゆく気持ちがしたということ。



問3 傍線部B 緑子は、うちひしがれて無口になった。とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答

番号は 15。

- ① 両親に花火を楽しんでもらおうと思って入念に下調べをして出かけてきたつもりだったのに、予想もしていなかったことが次々に起こり、両親から嫌味を言われなにか心配になったから。
- ② 場所取りのために下見までして準備を進めてきたのに、両親は自分が計画したとおりに行動することができなかったので、花火がほとんど見えない場所で妥協せざるを得なくなったから。
- ③ 年輩いた両親に少しでもよい場所で見てもらおうとして細心の注意を払っているのに、周りの若者たちに大声で怒鳴られたことで、自分の老いを実感して情けなくなってしまうから。
- ④ 両親と一緒に花火に行くために準備万端でここまでやってきたのに、見物客があまりに多くて場所取りに失敗し、身動きも取れない状態でもとも花火を楽しめる状況ではなくなってしまったから。
- ⑤ 衰えた体力を気遣いながらやっとの思いでここまで連れて来たというのに、両親は最後の最後で諦めてしまって動こうとしないので、自分の努力が踏みにじられたような気になったから。

問4 傍線部C 二人で一つの、ふしぎな塊 とあるが、両親のどのような点を述べたものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 目の前の現実の変化に決して抵抗することなく、何が起こっても同じ価値観を共有しながら静かに結束している点。
- ② 状況に応じて迅速に判断する力が乏しいため、そろって人から言われたことを疑うことなく鵜呑みにしてしまう点。
- ③ 事態の変化に対して積極的に関わる父と消極的にしか対応しない母とが、衝突せずに淡々と日々を過ごしている点。
- ④ 親でありながら二人とも娘との争い事を好まず、求められない限り、決して自分の意見を口に出さない点。
- ⑤ 二人は互いの至らないところを常に補い合い、どのような事態が起きても互いの信頼が決して揺らぐことがない点。



問5 傍線部D「ああ、まいった」とあるが、このときの「緑子」の心情についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 場所取りがうまくいかなかったことを申し訳なく思い、そのことを気につけないような両親に責任を感じていたが、本当に目を閉じて花火を味わっている様子を見て、救われた気持ちになっている。
- ② 花火が見えないことに納得がいかず、怒りの矛先を両親に向けるわけにもいかずにイライラしていたが、本当に目を閉じて花火を味わっている様子を見て、完全に愛想を尽かしている。
- ③ 花火が見える場所への移動を諦めたにもかかわらず、花火が見えることを期待している両親を不審に思っていたが、本当に目を閉じて花火を味わっている様子を見て、途方に暮れてしまっている。
- ④ 計画どおりにいかなかったことにいら立ち、どんな場面にも動じない両親にも腹を立てていたが、本当に目を閉じて花火を味わっている様子を見て、自分もこの状況を受け入れる気持ちになっている。
- ⑤ 何としてでも花火を見せてあげたいと思い、諦めかけている両親を説得しようと試みていたが、本当に目を閉じて花火を味わっている様子を見て、この事態を打開することを諦めてしまっている。

問6 この文章について説明したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 素早い場面転換を繰り返しながら、時系列に沿って多くのエピソードを語ることによって一つの家族の歴史が浮き彫りにされている。
- ② 物語の全体を見渡す、登場人物以外の語り手を設定しながらも、緑子の内面に寄り添う描写を中心に物語が語られている。
- ③ 主語を示す表現を巧みに使い分けることで、父と母に同調していた緑子がやがて二人と決別する過程が情感豊かに描かれている。
- ④ 登場人物同士の会話と個々の登場人物の独白のみで全体が構成されており、一つの出来事が様々な視点から描き出されている。
- ⑤ 過去の出来事を回想している場面と未来のことを想像している場面とが交互に挿入され、物語が重層的に展開されている。

5

国語総合の授業で、古文と漢文を読み比べ、それぞれに共通して描かれている人間像について考える学習を行った。IからIVの文章を読んで、問1～問5に答えよ。

I

世の中に、その比人(注3)のもてあつかひぐさに言ひあへる事、いろふべきにはあらぬ人の、よく案内知りて、人にも語り聞かせ、問ひ聞きたるこそうけられね。ことに、かたほとりなる聖法師(注4)などぞ、世の人の上は、わがごとく尋ね聞き、いかでかばかりは知りけん(注2)と覚ゆるまでぞ、言ひ散らすめる。

(『徒然草』第七十七段による。)

II

今様の事(注5)どものめづらしきを、言ひひろめ、もてなすこそ、又うけられね。世にことふりたるまで知らぬ人は、心にくし。いまさらの人などのある時、(注7)ここもとに言ひつけたることぐさ、ものの名など、心得たるどち、片端言ひ(注8)かはし、目見合はせ、笑ひなどして、心知らぬ人に心得ず思はする事、世なれず、よからぬ人の、必ずある事なり。

(『徒然草』第七十八段による。)

III

何事も入りたたぬさましたるぞよき。よき人は、知りたる事とて、さのみ知り顔にやは言ふ。片田舎(注6)よりさし出でたる人こそ、一万の道(注9)に心得たるよしのさしいらへはすれ。されば、世にはづかしきかたもあれど、自らもいみじと思へる気色(注10)、かたくななり。よくわきまへたる道には、必ず口重く、問はぬ限りは言はぬこそいみじけれ。

(『徒然草』第七十九段による。)

IV

高陽魁將(注10)為レ室(注11)、問二匠人一。匠人対曰、「未レ可也。木尚生(注12)。加二塗其上一、必ズ將二」

撓たわ。以二生材一任二重塗一、今雖レ成(注13)、後必敗レ。高陽魁曰、「不然(注13)。夫木枯ルレバ、則レ益勁(注13)、

塗乾ケバ、則益輕シ。以二勁材一任二輕塗一、今雖レ惡シト、後必善ズ。匠人窮シテ於二辭一、無二以レ對フル、受ケテ

令ヲ而為レ室ヲ。其始メテ **D**、(注14) 鉤然ゼントシテ 善カリキモ 也、而後果シテ **E**。此コレ 所謂いはゆる 直なほクシテ 於二辭一 而 不ズ

可ベカラ用フ者ナリ也。

〔淮南子〕による。

- (注1) いろふ——関係する。
- (注2) 案内——事情。内部の様子。
- (注3) かたほとり——都から遠く離れた土地。「片田舎」も同じ。
- (注4) 聖法師——修行僧。名利を去り、諸国を遍歴し、山中に庵いおりを結んで修行に専念した民間僧。
- (注5) 今様——今時。当世。
- (注6) いまさらの人——今新しく来た人。
- (注7) ここもとに言ひつけたることぐさ——こちらで言いなれている話題。
- (注8) 心得たるとち——承知している仲間同士。
- (注9) 心知らぬ人——意味が分からない人。
- (注10) 高陽魁——人名。

(注11) 匠人——大工。

(注12) 塗——泥。

(注13) 勁——強く。

(注14) 跼然——高くそびえ立つさま。

問1 傍線部A うけられねに見られる筆者の考えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 19。

- ① 直接関係のない者にも詳しく事情を語り聞かせるのは、好ましいということ。
- ② 直接関係のない者に事情を語ったり尋ねたりするのは、意味がないということ。
- ③ 直接関係のない者が詳しい事情を知ろうとして人に尋ね聞くのは、感心だということ。
- ④ 直接関係のない者が事情を知って人に語ったり尋ねたりするのは、納得ゆかないということ。
- ⑤ 直接関係のない者が当事者よりも事情をよく知っているのは、不気味だということ。

問2 傍線部B 自らもいみじと思へる気色とあるが、どういう様子を言っているのか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 20。

- ① 都とは全く縁がない自分を残念だと思っている様子。
- ② 世間知らずな自分を恥ずかしいと思っている様子。
- ③ 物知りであることを自分ですばらしいと思っている様子。
- ④ 何事にも控えめな態度を自分で誇らしく思っている様子。
- ⑤ 人に頼らずになんでもできる自分を偉いと思っている様子。

問3 傍線部C 匠人窮於辭、無以対 とあるが、なぜだと考えられるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号

は 21。

- ① 高陽魑の、生木に重い土を支えさせても後で乾くから問題ないという意見は、筋が通っているように思えたから。
- ② 高陽魑の、生木に重い土を支えさせても後で乾くから問題ないという意見と、同じことを考えていたから。
- ③ 高陽魑の、生木に重い土を支えさせると後で壊れてしまうという意見に、あきれ果ててしまったから。
- ④ 高陽魑の、生木に重い土を支えさせると後で壊れてしまうという意見は、思いも寄らなかったから。
- ⑤ 高陽魑の、生木に重い土を支えさせると後で壊れてしまうという意見は、全く無意味だと思ったから。

問4 空欄 D・

E

には、それぞれ本文中の漢字が入る。その組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答

番号は 22。

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| D | D | D | D | D |
| 枯 | 成 | 成 | 為 | 敗 |
|   |   |   |   |   |
| E | E | E | E | E |
| 敗 | 為 | 敗 | 成 | 成 |

問5 渡辺さんのクラスでは、ⅠからⅣの文章を読み深めた後で、話合いをした。次の【話合いの一部】を読んで、(1)・(2)に答えよ。

【話合いの一部】

渡辺さん 「ⅠからⅣの文章に共通して描かれている人間像について考えてみようか。」

石井さん 「Ⅰの文章では聖法師が『言ひ散らす』って書いてあるね。」

宮内さん 「そうだね。Ⅱの文章には『言ひひろめ』とあるし、おしゃべりな人物ということかな。」

岡部さん 「私もそう思うわ。でも、それだけじゃなくて、ほかにも共通点があるんじゃないかしら。」

石井さん 「Ⅰの文章の聖法師は『かたほとり』、つまり、都から遠く離れた所に住んでいる人ということだよ。Ⅲの文章には『片田舎よりさし出でたる人』とあるし、何か都と関係があるような気がするな。」

宮内さん 「そうすると、都の人とは違っているということも共通する特徴なのかな。」

石井さん 「ほかにも、Ⅰの文章では『よく案内知りて』や、Ⅲの文章では『知り顔』とあるので、知ったふりをすることも関係あるのかもしれないね。」

渡辺さん 「いままでに出てきた意見から考えると、Ⅲの文章の『よき人』というのは、F 人のことを言っているのかな。」

岡部さん 「そうね。最後に『よくわきまへたる道には、必ず口重く、問はぬ限りは言はぬこそいみじけれ。』と書いてあるしね。」

宮内さん 「話し合っているうちに、ⅠからⅢの文章で批判されている人の共通点が、だんだんわかってきたね。」

石井さん 「ところで、Ⅳの漢文はどうだろう。やっぱり古文と同じように、批判されるようなことが書いてあるのかな。」

岡部さん 「高陽魁と大工さんとの会話のやりとりに関係があるんじゃないかしら。」

(1) 空欄 F に入る内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

- ① 控えめで容姿が美しい
- ② 洗練されていて慎重深い
- ③ 愛想がよくて話し好き
- ④ 機転が利いて弁舌が巧みな
- ⑤ 徳が高くて人望が厚い

(2) この話合いを踏まえて、ある生徒がIからIVの文章に共通して読み取れる好ましい態度についてまとめた文として最も適当なものを、次の①

～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- ① 根も葉もないうわさに惑わされたり、理にかなっていないようだからといってやたらと人を疑ったりするのはよくないことであり、常に自分で判断すべきだということ。
- ② 心にもないことをむやみに口に出したり、専門外のことをよく調べずに知っているふりをするのはよくないことであり、自分の行動に責任を持つべきだということ。
- ③ 世の中の人のために情報を収集して発信したり、専門家に対しても遠慮せずに考えを述べたりするのはすばらしいことであり、積極的に振る舞うべきだということ。
- ④ 人に尋ねられたとき以外は一切発言しなかったり、その道の専門家の言葉に耳を傾けたりするのはすばらしいことであり、誰に対しても謙虚であるべきだということ。
- ⑤ よく知らないことを人に言いふらしたり、一見正しそうに見えても現実的ではないことを言ったりするのはよくないことであり、余計な発言は控えるべきだということ。

